

ジュセフ・E・スティグリッツ著「スティグリッツ教授の経済教室

- グローバル経済のトピックスを読み解く - 」ダイヤモンド社 2007年10月18日刊を読む

スカンジナビア諸国の政策から得られる教訓

1. 他の国々よりうまくやってきた国も少数ながら存在しており、これらの国が実施してきた政策を眺めてみると教えられることが多い。スカンジナビアの国々は、アメリカとは別の市場経済モデル、より十分な社会的保護を提供する市場経済モデルに従ってきた。確かに調整はなされている。たとえばスウェーデンでは、現在は障害給付基準を厳しくすべきだという声が上がっているし、過去には失業給付の規模の面である程度の調整が行われた。それでも総じて言うと、スカンジナビア諸国は他の国々よりはるかに強力なセーフティネットと高レベルの社会的保護を提供している。
2. もちろん、こうした給付を賄うには資金が必要で、責任ある財政運営を心がけているこの地域の政府は、したがって税率を世界最高レベルに引き上げた。それでもこれらの国は、経済成長という標準的なモノサシでも、社会の幸福度というより広いモノサシでも、高いパフォーマンスを示してきた。実際、国連開発計画(UNDP)の人間開発指数という広いモノサシで見ると、アメリカは第10位と、スカンジナビアのどの国よりも下位に位置している。
3. スカンジナビア諸国は、新技術の普及という点でも成功を収めてきた。その成功は高い税金にもかかわらずではなく、高い税金のおかげで達成されたものだ。高い税金のおかげで、今日の経済で成功するために必要な強力なセーフティネットと(たとえば人的資本への)積極的な投資が可能になっているのである。強力なセーフティネットがあれば、個人はそうでない場合より大きなリスクをとることができる。リスクをとることもまた、競争の激しいグローバリゼーションの時代における成功の要件である。
4. スカンジナビア各国はそれぞれいくぶん異なる政策を採っているものの、主な要素を簡単にまとめると次のようになる。
 - (1) 強力な教育プログラム：新技術に適応し、グローバリゼーションがもたらす急激な変化に対応するためには、質の高い人的資本が必要だ。教育程度の高い人ほど転職が容易であるという証拠もある。これらの国は生涯学習も重視している。教育を成功させるためには、学び方を学ぶ必要があるのである。
 - (2) 失職した労働者の再就職のための訓練を支援する積極的な労働市場政策。しかし、彼らが再就職できるだけの雇用がなくてはいけないのはもちろんである。

(3)完全雇用。高レベルの雇用を維持することは優れたマクロ経済政策の不可欠の要素である。残念ながら、これは往々にして、インフレを低く安定した水準に維持するという目的の次に置かれてきた。

(4)強力なセーフティネット。雇用創出とイノベーションで重要な役割を果たしてきた中小企業は、高い倒産の危険性に直面している。強力なセーフティネットは、高レベルの雇用と相まって、個人がそれに絡んだりリスクをとることを可能にする。

(5)企業の義務ではなく国家と個人の義務としてのセーフティネット。グローバリゼーションの時代には、企業は社会サービスの提供ではなく、新しい製品を低い価格でつくることに力を集中する必要がある。以前は、現代の資本主義体制の下で(昔の社会主義体制と同じく)企業がその両方を行っており、企業の成功は両方の分野でどれだけうまくやるかにかかっていた。今日では、GMがトヨタに追い抜かれ、倒産の脅威に直面している。問題は、より燃費効率のよい車をつくる必要性に GM が十分対処しなかったことにもあったが、退職者分を含む健康保険のコストが膨大な額にのぼることにもある。クリントン政権時代に私が関与した重要な構想の一つが、個人が重要な社会的保護を失うことなく転職できるよう、年金と健康保険をポータブル(転職先でも継続可能)にすることにより、労働者の移動を容易にすることだった。

5．スウェーデンの政策には、これらの要素に加えて、男女双方が取得できる育児休暇やディケアセンターなど、家族のための支援もある。これによってより多くの女性が労働市場に参加できるようになっている。この場合も、コストはかなりの額 GDP の 1 %相当 にのぼるが、便益(GDP の増大だけに留まるものではない)がコストを上回るという幅広いコンセンサスがある。

6．グローバリゼーションに十分に対応しようとするなら、労働市場に関する対応だけで事足りりとするわけにはいかない。グローバリゼーションによって暮らし向きが悪くなる人がいることを認めるのであれば、我々は、フルタイムで働く人が少なくとも生活可能賃金 その定義がどのようなものであれ を手にできるよう、(企業によって支払われる賃金を補填する)稼得所得税額控除など、より累進的な税制度を導入しなければならない。

7．グローバリゼーションに伴う競争に対応するためには、労働力の質を高めるとともに企業の生産性を向上させることによって、生産性を向上させることも必要だ。19 世紀のアメリカでは、大学で行われた研究の成果が政府の資金で運営されるエクステンション・サービス(普及活動)を通じて家族農場にもたらされていた。我々は今日、製造業分野のエクステンション・サービスを通じて、製造業で同じことを行う必要がある。これは中小企業にとって特に重要だ。

8．より概括的な点として、イノベーションは公共財であり、したがって完全自由市場では十分には提供されない。乏しい(しかも不当に低い価格しか付けられない)環境資源を守るためのイノベーシ

ョンとなるとなおさらだ。前述したように、中国はより強力な独自のイノベーション・システムを構築しようとしているが、他の国々も自国のイノベーション・システムの強化と方向転換を目指すべきだ。そのためには、よりイノベーション志向の知的財産制度と、研究大学に対するより幅広い支援が必要である。

P31 ~ 35

[コメント]

世界的な経済危機に見舞われている今こそ、10年後、つまり、2020年を見据えて経済や社会の在り方を考えることが大事だ。スティグリッツ先生の紹介して下さったスカンジナビア諸国の取り組みは極めて示唆に富むと考える。大いに学ぶべきだ。

- 2010年3月28日 林明夫記 -